（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和　7　年度　学校自己評価システムシート（県立越谷南高等学校）

目指す学校像	「文武両道」をとおして「知・徳・体」の調和を実現し、目標を高く持って社会に貢献する人材を育てる学校

重点目標	1 授業を第一に位置づけ、PISA タイムや ICT 活用による授業改善・教材開発を推進し、生徒が実感できる確かな学力の向上を確立する。 2 自主性を育むメリハリのある生徒指導やきめ細かな進路指導を充実させ、学校行事や部活動など「文武両道」に基づく豊かな人間性を育成する。 3 外国語科の特性を生かし、異文化理解を深め、語学力を向上させ、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒を育成する。 4 人材派遣等を含め地域活動における連携・協力を深め、本校の魅力を積極的に発信するなど開かれた学校づくりを推進し、公共心や社会性が豊かな生徒を育成する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】PISA ﾀｲﾑ実施から 3 年経ち、読解力、表現力の模試の結果が向上する等成果が出始めている。Chromebook の導入は 4 年目となり全学年が所有し、HR 連絡や課題提出だけでなく、生徒総会等の場面でも活用している。 【課題】 ・PISA ﾀｲﾑの課題について、読解力、表現力等の向上を目指し改善を図る。 ・2・3 年生のｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘの利用率が低いため、更なる ICT 活用を向上させると共に自主的な学習の動機付けになるようｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘを活用する。	授業を第一に位置づけた授業改善・教材開発の推進	①PISA ﾀｲﾑの工夫改善、ICT 活用による授業改善を推進する。 ②生徒による授業評価ｱﾝｹｰﾄを毎学期、授業公開週間を年２回実施する。	①PISA ﾀｲﾑや ICT 活用の授業改善や教材研究が推進しているか。 ②生徒による授業満足度、教員相互の授業見学率が向上したか。				
		自主学習を含めた確かな学力の向上の確立	①授業第一主義を最優先とし、進路実現に向け学力向上を実感できる授業を実践する。 ②家庭課題やｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘを有効活用し、自主学習の動機付けをする。	①教員の進路研修参加者数、生徒の模試平均点が向上したか。 ②生徒の自主学習時間、ｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘの視聴時間が増加したか。				
2	【現状】時代の変化に合わせ、生徒心得や制服等の見直しを図っている。生徒の基本的生活習慣は概ね良好である。部活動の加入率は 90%以上となり、部活動だけでなく生徒会等の学校行事にも積極的に参加している。 【課題】 ・学校行事や部活動等の場面における時代の変化に応じた生徒指導の更なる推進を図る。 ・進路実現をさせるため、自ら学ぶ態度を育て、主体的に学ぶ習慣を身に着けさせる。	時代の変化に応じた生徒指導の推進	①規制を緩和しながら、生徒自身が適切な行動選択できる環境を整える。 ②生徒自身が行事を運営し、主体的に参加できる企画を実現する。	①自浄作用のある集団として、生徒指導事案を抑止できたか。 ②生徒によるｱﾝｹｰﾄで学校行事への充実度、満足度が昨年度を上回ることができたか。				
		きめ細かな進路指導の充実	①３学年の面接・小論文指導等を学年団を越えて全体で分担する。 ②全員必須の模試に加えて、難関希望者への模試受験を奨励する。	①教職員全体で進路指導方針を共通理解し、進路指導の充実度、満足度を向上させることができたか。 ②国公立、難関・中堅私大の合格者数が昨年度を上回ることができたか。				
3	【現状】海外語学研修だけでなく、検定試験やｺﾝﾃｽﾄ参加等精力的に取り組み、成果を上げている。外国語科の特色ある取り組みを推進している。 【課題】 ・外国語科の授業では特にｱｳﾄﾌﾟｯﾄ活動の能力伸長を図っているが、羞恥心の克服や意見を表明できる態度の育成に課題がある。 ・外国語科で培ってきた異文化教育の知見を普通科にも波及させる。	外国語科の特色ある取組みを生かした異文化理解の推進	①ＡＬＴと連携を図った授業を推進する。 ②海外への留学事業等の活用と、海外からの留学生受入を推進し、異文化理解を推進する。	①常駐の２名のＡＬＴと連携を図った授業を実施できたか。 ②海外への留学希望者、海外からの留学希望者が増加したか。				
		主体的にｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを図ることができる生徒の育成	①英語及び第二外国語の検定やｺﾝﾃｽﾄに積極的に参加する。 ②外国語科のﾉｳﾊｳを普通科に波及させ、更なる異文化理解を推進する。	①検定やｺﾝﾃｽﾄへの参加、英語劇の取組により、語学力が向上したか。 ②ｵｰｽﾄﾗﾘｱ語学研修への普通科生徒の参加が増加したか。				
4	【現状】学校 HP や SNS を定期的に更新し情報を発信している。コロナ禍が明けて地域連携事業も徐々に再開したが、関わる生徒がまだ少数である。 【課題】 ・教員一人一人が意識を持ち学校説明会や地域交流を実施する。 ・中学生等のﾆｰｽﾞに対応し、学校 HP 内のﾌﾞﾛｸﾞ更新や公式ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑで情報発信し、閲覧数やﾌｫﾛﾜｰを増やすとともに、学校説明会や地域の説明会で早期の説明機会を確保することが課題である。	生徒派遣を含めた地域活動における連携・協力の強化	①学校公開日や文化祭、部活動の発表等を周知すると共に、地域ｲﾍﾞﾝﾄ等に生徒派遣も含め参加する。 ②近隣の幼保小中高や他機関と連携し開かれた学校づくりを推進する。	①学校公開等の来校者数が昨年度を上回ることができたか。 ②近隣の学校や他機関との交流、連携した取組ができたか。				
		本校の魅力に関する積極的な情報発信による開かれた学校づくり	①学校 HP 内のﾌﾞﾛｸﾞや、SNS（ｲﾝｽﾀ）の更新を増やす。 ②中学生のﾆｰｽﾞに合わせた学校説明会等の内容の見直しを図る。	①学校 HP のｱｸｾｽ数が増加し、SNS のﾌｫﾛﾜｰ数が増加したか。 ②学校説明会の開催時期や受入数の改善を図り、中学生によるｱﾝｹｰﾄで学校説明会等の説明内容に、概ね好評の回答を得られたか。				